

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2775502798
法人名	株式会社エートス
事業所名	グループホーム ここから陽光園
訪問調査日	平成 21 年 2 月 24 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 19 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月26日

【評価実施概要】

事業所番号	2775502798
法人名	株式会社 エートス
事業所名	グループホーム ここから陽光園
所在地	大阪府八尾市陽光園1丁目5番11号 (電話) 072-995-3230

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年2月24日	評価確定日	平成21年3月19日

【情報提供票より】(21年2月7日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	13 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 11 人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷 金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	800 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(2月 7日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	73 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医真会八尾総合病院、西村歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR八尾駅より徒歩10分の住宅地に、落ち着いた外観の2階建て2ユニットのホームとして、平成18年3月に開設された。代表者はコンサルティング会社のグループ企業を自己所有の土地に新設した。代表者夫婦が介護業務に携わり、職員が内外の研修を受け実務をしている。開設当初から勤務する管理者や職員の多くが近隣に居住し、グループ企業の勉強会や市の介護事業者連絡協議会のグループホーム分科会に参加して、市と共にサービス向上に取り組んでいる。管理者が医療機関と密に連携を図り、終末期のあり方についての方針をたて共有し、看取りのケアも行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題は、①評価の意義の理解と活用②現状に即した介護計画の見直し③食事を楽しむことのできる支援④入浴を楽しむことができる支援⑤鍵をかけないケアの実践、の5点であったが、改善への取り組みが見られた。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 評価の意義や目的を全職員に伝え、今回の自己評価に取り組んだ。職員休憩室にも前回の評価を掲示し、外部評価の結果を職員で話し合い、改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 高齢クラブ、民生委員、地域包括支援センター、市担当者、利用者や家族等が出席して2ヶ月に1回開催している。事業所からの報告をもとに、質問、意見や要望などを聞いて議事録を作成し、サービス向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 「ここから新聞」を毎月発行して郵送し、利用者の日々の暮らしや健康状態、事業所の運営について報告している。家族の来訪時には声かけをして、個々に合わせた報告をして意見をもらい、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 代表者は事業所に隣接して居住し、地域との繋がりが深い。自治会に加入し、地域のゴミ拾いなどに利用者と一緒に参加している。地区の盆踊りや運動会に招待され、地域のボランティアや保育園児等の訪問を受けている。日ごろから災害時には、地域の協力が得られるよう働きかけをしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人と人との温かいふれあいの心」を大切に、日々の福祉サービスに努め、入居者や地域の方々と共によりよい地域福祉の実現に寄与する。①尊厳と自由の厳守②入居者職員は共に生活する関係を認識③入居者中心の自立支援④サービスの質の向上を理念とする。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関を入った正面に、理念を掲示している。重要事項説明書に記載し、職員採用時には必ず理念を伝えて、理解してもらうようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者は、地元生まれホームに隣接して居住する。自治会に加入して、地域のゴミ拾いに利用者・職員共に参加し、地区の盆踊りや運動会に招待され、地域のボランティアや保育園児等の訪問を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全職員に伝え、今回の自己評価に取り組んだ。職員休憩室にも掲示して、外部評価の結果を職員で話し合い、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	高齢クラブ、民生委員、地域包括支援センター、市担当者、利用者、家族が出席して2ヶ月に1回開催。事業所からの報告をもとに、質問、意見、要望などを聞いて議事録を作成し、サービス向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業者連絡協議会や事業者部会、グループホーム分科会に参加し、機会をつくり市担当者との合意、相談や意見交換をするようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「ここから新聞」を毎月郵送し、家族へ日々の暮らしや健康状態、事業所の運営について報告している。家族の来訪時には声かけをして、個々に合わせた報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の来訪時には話しやすい雰囲気をつくり、意見や要望などを聞いて、職員会議で話し合い、日々の業務に取り入れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一度に多くの職員の異動がないように心掛けている。やむを得ない変更には、利用者の不安がないように、管理者は引き継ぎをスムーズに行うよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制を変更して外部研修を受ける支援している。外部研修を活かした勉強会を定期的開催している。研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護保険事業者連絡協議会に出席した機会を捉え交流に努め、近隣の他グループホームを見学させてもらっている。グループ企業研修会に参加し、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅などに出向き、ホームの見学を通して、利用者や家族等と何度も話し合い、体験入居なども取り入れて、納得してサービスを利用してもらえるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々一緒に暮らす同士として、教えてもらえる場面をつくり、利用者ができることで手伝ってもらい、和やかな生活ができるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に自宅を訪問して、利用者や家族等からの暮らし方の情報を得て、日々のかかわりの中で声かけをして意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回、グループ企業独自の「ケアプランチェックシート」で確認する会議を開いている。状況の変化や家族等の意見や要望、医師の往診時に意見を聞いて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回見直しを行っている。利用者別のケア記録を職員間で共有し、利用者の状態の変化に即応して、介護計画を見直すようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携の体制を活かし、利用者にとって負担となる受診や入院の回避など、利用者や家族の希望にあわせ柔軟に対応している。さらに地域住民が求める支援の検討が望まれる。	○	認知症対応の職員の機能を活かし、事業所に介護の相談窓口や地域での介護勉強会などの検討を期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により、入居前のかかりつけ医への受診支援や、協力医療機関の紹介をしている。定期的に医師が往診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りの指針書」を作成し、入居時に終末期のあり方について説明している。状況に応じて再度、利用者や家族等、医師、看護師、職員とよく話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修や職員会議で、職員の意識向上を図り、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。記録や個人情報の取り扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに配慮しながら、利用者の健康状態に合わせて、希望や要望を聞きながら、その人らしい暮らしが出来るよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食卓について介助しながら、家庭的な雰囲気楽しんで食事をしている。利用者が出来ることで手伝ってもらい、準備や後片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週3回とし、利用者のその日の希望を確認して時間や順番など、柔軟に対応している。下着が汚れた場合はシャワー浴で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年間行事計画を作成して日々楽しく過せる工夫をしている。個別には、塗り絵、囲碁、民謡、健康体操や前庭の草花の水遣りなどの気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物など、一人ひとりの希望に合わせて出かけている。天気の良い日は、庭でのティータイムでのんびりと過している。年間行事で初詣、花見、外食などで戸外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していないが、利用者の状態により、止むを得ずユニット入口は施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、利用者と職員と一緒に避難訓練をしている。代表者が地域に住み、日ごろから地域の協力が得られるよう働きかけをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部管理栄養士が作成した献立により食事を提供している。食事や水分摂取状況をチェック表に記録して、個々の健康管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホーム仕様で新設され、食堂、廊下、トイレ、浴室等はゆったりとして明るく清潔である。食堂や廊下にソファをおいて、のんびり過ごせるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談しながら、使い慣れたベッドやタンス、ソファやテレビなどを持ち込んで、写真や小物を飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。		